



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア・エネルギー事情：ナイミー石油鉱物資源大臣の石油開発および太陽光発電に関する発言
(6月4日付サウジガゼット紙)

1. ナイミー石油鉱物資源大臣は、ポーランドのガルニクツォーフトニクザ (Garniczo-Hutnicza) 大学と KAUST (キングアブドゥッラー科学技術大学) との協力のため、ポーランドを訪問、ガルニクツォーフトニクザ大学から名誉博士号を授与された。同大臣は、サウジは 2460 億バーレルの原油を有しており、引き続き世界に対して信頼されるエネルギー源として寄与し、今後 5 年間で石油産業に対して総額 1250 億ドルの投資を実施すると述べた。
2. また、同大臣は、太陽光発電をはじめとするその他のエネルギーに関する取り組みを進め、特に、KAUST がその開拓を担うと述べた。サウジアラムコと KAUST は、空調や、海水淡水化、ポンプ動力等の産業活動に対応できるよう、低価格太陽光発電の実現に向けて取り組みを進めると述べた上で、アラムコがダーランで 10MW のサウジ最大の太陽光発電プラントを建設する計画であることを明らかにした。